

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (259)

無声音

タモツ君のお母さんがお茶菓子を持ってタモツ君のおばあさんのところに来ています。

「この間、タモツが教頭先生に教わったって、清直音とか清拗音とかって言うので、あとで『広辞苑』で「清音」っていうのを引いたら、「②〔言〕無声音に同じ。」って、出ていたのですけれど、どういうことなのでしょう。」

「あら、熱心なこと。ちょっとわかりにくい語釈ね。カ行に対するガ行、サ行に対するザ行、タ行に対するダ行って、その子音が無声音と有声音の関係になっているの。」

「ハ行は？」

「ハ行は困るのよね。今のハ行の子音はhだけれど、バ行の子音はb。bに対する無声音はpなの。音声としては、パ行に対するバ行になるってわけ。」

「そういえば、ハ行のヒとフは、子音がハヘホとは違うのでしたね。」

無声音とは？

声帯の振動を伴わずに発せられる音。
[p][t][k][f][s]など。⇔有声音。
(『広辞苑(第六版)』より)

カ行の場合

清音 カキクケコ 子音 [k]
濁音 ガギグゲゴ 子音 [g]
[g]の無声音は[k]

ハ行の場合

清音 ハヒフヘホ 子音 [h]
ハ・ヘ・ホ は[h]
ヒは[ç]
フは[φ]
濁音 バビブベボ 子音 [b]
[b]の無声音は[p]

音韻と音声の関係で、
日本語は原則として

清音	⇔	濁音
無声音	⇔	有声音

という関係が成り立つのですね



ハ行は原則と違うんですね